

# 令和5年（2023年）度行政評価シート

令和5年8月14日

評価者	こどもみらい部長 廣川 正
-----	---------------

## ○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野 4-(4) 青少年育成	施策の方針	4-(4)-①青少年の育成・支援
目標とするまちの姿	青少年一人ひとりが多様な体験や活動を通じて、夢や希望を持って様々なことに挑戦し、多くの人々との関わりの中で地域を支えられるような大人に成長しています。地域に青少年が集うことのできる居場所や社会参画の機会・仕組みが整っています。		
主な取組	(1) 青少年の居場所づくり 多様な体験・活動や多くの人々との関わりを通じて、青少年が自立・参画・共生していく基礎を育むことのできる居場所づくりを支援します。 (2) 地域の担い手となる青少年の育成 地域で青少年を育成する風土を醸成するとともに、将来の地域づくりの担い手となる青少年の育成を目指し、発達段階に応じた社会参画の機会を創出します。		

### 1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

#### こどもみらい部

子どもや若者の意見を取り入れた新たな青少年の居場所づくりを支援する。  
 放課後かまくらっ子における中高生の参画を推進する。

### 2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	24,276	29,981	28,932			
人件費	44,376	65,785	404,296			
総事業費	68,652	95,766	433,228	0	0	0

### 3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	こども-27	放課後かまくらっ子推進事業		1,765	13,994	15,759	改善・変更	A	改善・変更
	こども-28	育成事業		5,203	239,274	244,477	拡充	A	拡充
	こども-29	青少年会館管理運営事業		21,964	151,028	172,992	改善・変更	A	改善・変更

### 4. 評価対象年度の主な実施内容

#### こどもみらい部

アンケート調査等によるニーズ調査を実施し、多くの有益な回答を得られた。居場所づくりの今後の方策・方向性について内容をまとめた「青少年の居場所について～考え方、今後の方策・方向性～」を策定した。  
 放課後かまくらっ子における中高生参画のため、2施設において、モデル的に中高学年育成プログラムを実施した。

※実施できなかった事業とその理由

## 5. 成果指標

成果指標①		放課後かまくらっ子に参加した中高生の数					出典	所管課調べ		
初期値	令和元年8月31日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	30	目標値	50	50	70	70	100	100	人	
		実績値	未実施	9	88					
		達成率	—	18.0%	100.0%				%	
成果指標②		放課後かまくらっ子の推進支援に参画した大学生の数					出典	所管課調べ		
初期値	平成31年4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	100	目標値	160	200	200	230	230	250	人	
		実績値	160	700	800					
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%				%	
成果指標③		居場所に関するアンケート調査において「居心地の良い場所があるか」との問いに対し「いいえ」と回答した割合					出典	所管課調べ		
初期値	令和2年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	5	目標値	5.0	5.0	4.0	4.0	3.0	3.0	%	コロナ禍における式典実施に伴う対策のため未実施
		実績値	5.0	2.0	未実施					
		達成率	100.0%	100.0%					%	

## 6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

### こどもみらい部

#### 成果指標①

中学生による放課後かまくらっ子への参画として、放課後かまくらっ子利用児童が、小学校卒業後も放課後かまくらっ子に関わりたいと感じられるよう、2施設においてモデル的に中高学年リーダー育成プログラムを実施している。

#### 成果指標②

大学生による放課後かまくらっ子への参画は、認定NPO法人鎌倉てらこやとの協定等によって、目標値に到達しており、本施策によって青少年の社会参画の機会・仕組み作りに一定の効果が得られている。

#### 成果指標③

青少年の新たな居場所づくりに向けて、青少年のニーズや意見を定点観測するための指標として、二十歳のつどいにおいて居場所に関するアンケートを実施してきた。令和3年度はコロナ禍での式典実施となったため、感染防止対策として、式典時間の短縮及び早期撤収を行ったところ、アンケート回収率が想定を下回り、施策の効果を判断する指標とするために必要な回答数を得られなかった。

このため、令和4年度は中学生へのオンラインアンケートを実施しつつ、ポストコロナ・アフターコロナにおけるアンケート調査方法を検討することとした。なお、中学生を対象としたアンケートにおいて、同様の設問に対し、「いいえ」と回答した割合は8%であった。

令和5年度については、二十歳のつどいにおけるアンケート調査の再開を予定しているが、オンラインを活用しつつ、会場に来られない人からの回答を促すとともに、会場においても積極的な声かけを行い、より多くの回答を得られるよう努め、ニーズや意見を分析するための手段としていきたい。

## 7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

### ※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

#### 「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

### こどもみらい部

居場所に関するアンケート調査を実施したことで、青少年がどのような居場所を求めているのか意見やニーズを把握することができ、青少年居場所づくりの支援に寄与することができた。

放課後かまくらっ子へ大学生、中高生が参画する機会を創出することで、一つの居場所を提供するとともに、社会参画の機会を提供し、地域の担い手となる青少年の育成を推進を図った。

## 8. 今後の方向性

### こどもみらい部

青少年の居場所づくりとして、青少年の育成・支援における一つの課題でもある居場所の形成に向け、当事者から求められる居場所を一つでも多く提供できるよう、協議・検討を行っていく。

地域の担い手となる青少年の育成として、放課後かまくらっ子が、将来の地域づくりの担い手となる青少年育成の土壌となるよう、大学生や中高生の参画を推進していく。また、青少年に係る施策に青少年の声が反映されるよう委員やプロジェクトチームに若者を取り込んでいく。

## 9. 今年度(評価年度)の目標

### こどもみらい部

青少年の居場所づくりを始めとした青少年施策に当事者の意見を反映させていくため、青少年問題協議会委員に青少年を市民委員として委嘱するほか、二十歳のつどい事業者選定の見直し、鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会設置など、若者の声をより生かせるように連携・協議の取り組みを深めていく。

不登校状態の起因とした若者の孤立を防ぐため、フリースクール等利用児童生徒支援補助金制度の運用を開始する。

放課後かまくらっ子が一つの居場所となるよう、大学生及び中高生の参画を推進していく。